

脳梗塞の原因となる不整脈:心房細動

谷口クリニック

谷口 靖広 先生

群馬県出身の政治家やプロ野球元監督などが脳梗塞で倒れ大きな話題となったのもだいぶ昔となりました。この脳梗塞の原因は、心房細動と言われる不整脈の一種であった伝えられています。今回は、この心房細動についてお話しします。

心臓は二つの心房と二つの心室と呼ばれる、計四つの袋状の筋肉から構成されています。正常では、初めに心房が収縮し血液を心室へ送りこみ、続いて心室が収縮して全身に血液を送り出します。これを1日に10万回ほど規則正しく繰り返しています。ところが、心房が正常の収縮を失い、震えるような状態となったものが心房細動です。心房の収縮が失われると心房内で血液の流れが停滞し、血液は心臓の中で塊(血栓)となってしまいます。この血栓が心臓からはがれ出て、血液の流れに乗り、脳の血管で詰まると脳梗塞(脳塞栓症)を起こします。動脈硬化を原因とする脳梗塞(脳血栓症)に比べ発症が急激で、しかも大きな範囲の脳梗塞となりやすく、ダメージも甚大です。心房細動は、年齢とともに頻度が増し(40歳で1%、80歳で10%程度)、国内の患者は72万人(2000年)ほどと推定されています。このように決して珍しい病気ではありません。動悸、胸痛などの症状を自覚する場合がありますが、症状がなく知らぬ間に心房細動となっている人もいます。また数時間から数日のうちに自然と正常に回復する発作性の心房細動もあるために注意が必要です。心房細動に高血圧、糖尿病、加齢(75歳以上)、心不全、脳梗塞の既往などが合併すると脳梗塞発症(再発)の危険が高まると考えられています。

心房細動は、単独では命を落とすような重篤な病気ではありません。しかし、一度脳梗塞を発症すると麻痺や失語などの後遺症のためその後の人生が変わってしまいます。心房細動を指摘された場合には医療機関でリスクに合わせた脳梗塞予防を受けることをお勧めします。